

平成27年度

施策評価マネジメントシート(平成26年度の実績評価)

記入年月日

平成 27 年 6 月 2 日

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	井坂 徹
303	施策名	青少年の健全育成	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口	見込値	人	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
45,122														44,571
実績値			人	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度	
														46,575
②青少年人口			見込値	人	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度
		実績値	人	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度	
														8,880
		心豊かにたくましく育つ	①家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合	%	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度
実績値			%	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度	
														—
②地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数	見込値		人	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度	
														600
	実績値	人	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度		
													780	601
成果指標設定の考え方	<p>○健全に生活でき、親子のコミュニケーションがとれていれば心豊かにたくましく育っていると考え、アンケート調査の(中学生までの子供を持つ保護者)「家庭において、お子さんと、どの程度の会話をしていますか。」において「悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合」で把握する。</p> <p>○心豊かにたくましく育ってもらうためには、地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数(自分の子ども以外を指導育成しているかどうか)、青少年が参加した活動の参加人数の割合で把握する。保護者世代に対する意識をもってもらおう取組み。</p>													
成果指標の把握方法と算定式等	<p>○桜川市の人口は、毎年10月1日の常住人口。</p> <p>○市民の未成年者(20歳未満の市民)は、各年4月1日の住民基本台帳による</p> <p>○地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、社会環境浄化活動等の参加人数の割合(保護者世代に対する意識をもってもらおう取組み。)</p>													

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	<p>○「地域の子供は地域で育てる」という意識の醸成を図るため、市民は地域において青少年の育成の場をつくり、地域全体で青少年の健全育成を図る。</p>	<p>○地域の関連団体の育成やボランティア活動等に対する継続的な意識啓発活動を進め、地域が一体となり青少年が健全にのびのびと生活できる環境を創造する。</p>
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	<p>○少子高齢化にともない、地区(小学校)単位で行っていた事業が、事務事業の平準化により、市一本化で実施する傾向にある。市単位で事業を実施することによって、参加者(子ども達)が制約され、底辺の活動が停滞する可能性が高い。「青少年の主張大会」などは市で実施することによって、より効果が上がると思われるが、子ども達の「生きる力」を育むための体験学習活動は地区(小学校)単位で実施したほうがよい。</p> <p>○地域の連帯意識が薄れ、地域教育力の低下が叫ばれている中で、子ども達の体験学習事業等に地域の三世代が参加することによって、地域の連帯感の高揚にもなると思われる。</p> <p>○地区により、行政が主体的に実施するものと、市民会議や学校等が主体的に取り組んでいるなど差がある。</p> <p>○取り組む事業は地域の特性に合わせて行うことが理想であり、取組みを継続していくことが重要である。</p>	<p>○立志の集い。(真壁地区、市民会議で実施していた。)、岩瀬・大和地区(行政の補助金で実施していた。))運営方針や体制を統一してほしいという要望があった。</p> <p>○子どもに不便さを体験させたいという意見がある。(野外体験などを実施している。)</p> <p>○三世代の集いを復活してほしいという意見もある。(コミュニティスクール事業と連携するとよい結果が出た。)</p> <p>○高齢者と子どもたちのふれあう場を企画実施してほしい。との意見がある。</p> <p>○小中学生と高校生の交流を図るべきとの意見がある。</p>

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 青少年活動の充実	青少年	生きる力を身につける	①体験教室の開催回数	実績値	60	56	45	31	30		
				回							
② 家庭教育の充実	青少年の保護者	家庭での教育力を高める	家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合	実績値	46.0	33.0	46.0	51.3	46.3		
				%							
③ 地域教育力の充実	地域住民	地域の教育力を高める	地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数	実績値	601	507	680	695	0		
				人							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	25年度実績	26年度実績	27年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	17	16	16
②施策事業費(一般財源以外)	千円	116	100	138
③施策事業費(一般財源)	千円	3,685	3,672	4,448
④施策事業費の計(②+③)	千円	3,801	3,772	4,586
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	14,512	15,352	12,321
⑥ 計 (④+⑤)	千円	18,313	19,124	16,907

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
事務事業	青少年相談員運営事業	H26貢献度上位、H27優先度上位
事務事業	青少年育成桜川市民会議運営事業	H26貢献度上位
事務事業	コミュニティスクール事業	H27優先度上位

施策番号	303	施策名	青少年の健全育成	主管課	生涯学習課
------	-----	-----	----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話をしている割合は、24年度46.0%、25年度は51.3%と上昇したが、26年度は46.3%と5ポイント下回った。</p> <p>・青少年相談員が青少年が多く集まる市内で行われる祭事等で巡回指導を実施した回数は、21年度から25年度までは、毎年度8回(真壁祇園祭3日・岩瀬祇園祭2日・岩瀬盆踊1日・大和地区夏休み2日)実施。26年度は岩瀬祇園祭の巡回活動が1日減り計7回実施した。また、「青少年の健全育成に協力する店」等の訪問・登録促進活動については、25年度は85件だが、26年度は130件の登録活動を実施し、45店舗増加した。巡回指導及び店舗訪問活動は青少年相談員の根幹的な活動であり、地域全体で見守る体制づくりに努めている。なお、巡回指導における青少年への指導・保護の事例及び問題事例の発生はない。</p> <p>・地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、青少年育成桜川市民会議を中心に実施する「青少年のための社会環境浄化活動」の参加人数である。23年度は507人、24年度は680人と、増加していたが、25年度は695人、26年度は雨天のため中止となった。なお26年度が雨天で中止となったことにより、「順延にして実施してはどうか」との意見が寄せられたため、27年度からは予備日を設定し実施する予定である。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どりの成果であった	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話をしている割合は、26年度の目標値48.0%に対し46.3%と1.7ポイント目標値を下回った。</p> <p>②地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、26年度の目標値は600人となっていたが、雨天で中止となったため成果指標はない。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・桜川市の青少年の健全育成事業は県内でも先進的であり、多くの事業に取り組んでいる地区である。県西地域の市町村では街頭でのあいさつ運動や役員の視察研修会等を実施している程度であり、比較対照とする指標はない。なお、市民会議主催「青少年の主張大会」の運営方法の見直しを行い、市内中学校5校を持ち回り開催とし、26年度は岩瀬西中学校で実施した。</p> <p>・桜川市は青少年健全に対する取組みを早期に着手してきたことから、後発団体よりもノウハウが蓄積されており、活動も盛んである。</p> <p>・あいさつ声かけ運動については、青少年育成市民会議・青少年相談員・行政区長等が中心となり、JR水戸線岩瀬駅及び羽黒駅前、及び市内小・中・高等学校門前で取り組んだ。桜川市は市内の高等学校も積極的に参加しており、県内でも小・中・高と連携して取り組んでいる事例は少ない。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・青少年の健全育成事業として市内の全120行政区から地区会費を徴収して様々な事業に取り組んでいることから、住民が期待する青少年の健全育成に対する期待の大きさが伺われる。しかしながら、長年行ってきた青少年健全活動が市民に浸透していることは確かだが、住民が期待する水準が不明確なところもあり、相談員が巡回指導した回数や店舗訪問数、また社会環境浄化活動などの青少年育成事業への参加人数等は判断しがたいものがある。</p> <p>・総合計画後期計画の策定時におけるアンケート調査では、この施策における住民の優先度は低く、満足度は平均よりやや高く、現状維持項目である。結果、今後青少年健全育成活動を地道ではあるが継続的に行っていくことが必要である。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>26年度においては、青少年に対し、「生きる力を身につける」を目標に重点的に取り組んだ。</p> <p>・事務事業貢献度評価結果から、具体的に施策の成果向上に貢献した主な事業は「青少年相談員運営事業」「青少年育成桜川市民会議運営事業」「コミュニティスクール事業」「放課後子どもプラン推進事業(放課後子ども教室)」であった。</p> <p>・「青少年相談員運営事業」は、市内の青少年が立ち寄りそうな店舗を訪問し、青少年の健全育成に協力する店登録活動を行うなど、新規店舗訪問を含め積極的に登録活動を実施した。また、街頭巡視活動、有害図書の入立調査など青少年を取り巻く環境の整備に努めた。</p> <p>・「青少年育成桜川市民会議運営事業」は、あいさつ声かけ運動事業(406名参加)、青少年の主張大会事業(421名参加)、及び会員の資質向上のために指導者研修会を実施した。なお、各支部においても青少年を対象とした特色ある事業を展開した。</p> <p>・「コミュニティスクール事業」は、真壁地区の小学校区ごとに地域の特性を活かした様々な取り組みを実施した。真壁小学校区では真壁小学校プールにおいて「親子でニジマス釣り」外、紫尾小学校区では、校庭周辺を流れる川において「アユのつかみ取り&amp;バーベキュー」外、谷貝小学校区では、校庭内においてPTA関係者及び子ども会と協力し「サマーキャンプ」外、権徳小学校区では、市スマイルクラブの協力を得てサマーフェスティバル(エアライフル、バランスボール体験)外の事業を行い、延べ2,275名の参加があった。</p> <p>・「放課後子どもプラン推進事業(放課後子ども教室)」は、「おもしろ理科教室」、「お料理教室」、「作って楽しもう教室」、「自然文化財教室」の4つの教室を、年各4回計16回開催し、213人の参加があった。参加児童は、各教室で初めて体験する出来事に積極的に活動し、学ぶことができた。</p> <p>・その他の事務事業では、「市子ども会育成連合会運営助成事業」「学校警察連絡協議会運営助成事業」等がある。</p> <p>・「市子ども会育成連合会運営助成事業」は、市内の子どもの交流と、学校以外での体験活動をさせるため、市内球技大会の開催(262名参加)や、桜っ子探検隊での奥久慈憩いの森訪問(124名参加・保護者含む)などの事業を実施した。</p> <p>・「学校警察連絡協議会運営助成事業」は、学校、警察、及び関係機関が緊密な連携をとり、児童生徒の健全育成を目的とした事業を行った。具体的には、長期休業中の対応等の協議(年3回)及び校外巡視活動(5回)、並びに会員の資質向上のための研修会(年3回)を実施した。</p>
-------------	---

8. 今後の課題と方針

区分	今後の課題	今後の方針	
施策全体	<p>・青少年が抱える問題は年々深刻化しており、学校と家庭と地域の連携強化を図り、地域ぐるみで子どもたちを取り巻く様々な環境を改善するとともに、手本となる親や大人の自覚など意識を高めていく必要がある。</p>	<p>・学校、家庭、地域の連携強化を図り、地域ぐるみで子どもたちを取り巻く様々な環境を改善するとともに、手本となる保護者や地域住民の自覚など意識啓発に努めます。</p> <p>・子どもがたくましく伸び伸びと生活できるよう、地域の子どものは地域で育てる環境を形成し、地域住民の連帯意識を高め、世代間交流等による地域社会の活性化を図ります。</p>	
基本事業	①青少年活動の充実	<p>多くの参加者を募るためのPR活動が必要となってくる。関係機関との連携を密にして、必要に応じて青少年及び家庭を指導する。各種事業を通じて、青少年の健全育成の啓発活動を推進する。</p>	<p>多彩な地域活動やボランティア活動など、「見て・聞いて・体験して感動できる」活動を充実させ、これら豊かな体験をとおし、子ども達の「生きる力」を育みます。</p>
	②家庭教育の充実	<p>学校と家庭と地域の連携強化を図る事が必要と思われる。親子で参加できる「あいさつ声かけ運動」「社会環境浄化運動」等に取り組んでいるが、運動の趣旨の浸透が図られず、参加者数が伸び悩んでいる。とくに、問題があると思われる家庭や小中学生などの参加が少ない。無関心である。</p>	<p>家庭は、家族の暖かい人間関係を通じて子ども達が基本的な規範意識や生活習慣を学ぶ人間形成の場として極めて重要であることから、学校等と連携しPTA活動や家庭教育学級を通じて、「子どもの見本となる保護者意識」を高める相談・支援体制を充実し、ふれあいのある家庭づくりを推進します。</p>
	③地域教育力の充実	<p>青少年の健全育成はすべての市民の願いであり、使命でもある。青少年の人格形成には、日常生活における親や大人の子供に対する関わりが大きく影響することから、親や大人がなお一層の自覚を促進し、青少年のよい手本となるよう、関係団体と連携をはかっていくことが重要である。</p>	<p>地域コミュニティの地縁的結びつきをベースとして、社会環境浄化活動や地域防犯(見守り活動)及び地域の伝統行事などを通して、異世代間の交流事業を図り、「地域の子どものは地域で育てる」という意識を啓発します。</p>